



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043(22)7207 番

96.6.7 No.4410

## 「6・5動労千葉総決起集会」に240名が結集し大成功！

# 熱気あふれる発言が相次ぐ

## 謝罪拒否、作業再開にはストライキだ！

六月五日、一八時より、千葉市民会館において、各支部から二四〇名が結集して「正念場の国鉄闘争勝利に向けた動労千葉総決起集会」が開催され、分割・民営化一〇年目に於いて新たに開始された動労千葉破壊攻撃に對して、動労千葉全組合員が断固として反撃する第一歩を踏み出す場となった。

集会は、中村執行委員の司会で進められ、まず主催者を代表して中野委員長からあいさつが行なわれた(要旨別掲)。

来賓として水野勝浦市議からは、「労働者の命を虫けらのように扱うJRを許すことはできない。人間として尊重しない会社には実力闘争しかない。今日の総決起集会は動労千葉の針路を示している」と熱の入ったあいさつが行なわれた。

「スト体制の確立を！」  
田中書記長基調報告

### 会社の責任を徹底的に追及して闘おう(中野委員長あいさつ要旨)

分割・民営化一〇年目に突入して国鉄闘争が重大な正念場を迎えている。分割・民営化の破綻が誰からも見ても明らかになっている。長期債務は今年四月で二七兆六千億円になった。さらに公的年金への移行に伴う八千億円の「持参金」を含めたらここ数年で三〇兆円になってしまふ。また、JR七社のうち北海道・四国・九州・貨物は経営が成り立たないという、「完全民営化」が事実上破綻している状況が生まれている。

さらに、労務政策の破綻が大きな問題となっている。これは、動労千葉が二波のストを貫徹して一〇年間を闘い、国労が三万の勢力を維持し、清算事業団一〇四七名が解雇撤回・原職復帰を一〇年間闘いぬいていることに規定されている。

一方JR東日本は、鉄道部門五万七千人をあと一万人削減し、JR全体でも一〇万人にしようとしている。こうした合理化攻撃は、結局動労千葉、国労を解体する攻撃として出てくることになる。

そして、この間の最大の問題は、列車妨害問題だ。JR総連革マルはこれに関して、「JRの内外にいる分割・民営化に反対して連中の犯行だ」「国労が犯人だ」と言い出している。

しかし、今回の列車妨害問題が、国労や動労千葉を潰すために使われているということをはっきりさせなければならない。とくに四

つぎに、田中書記長から基調報告が行なわれ、この間の木更津脱退強要問題、幕張有機溶剤作業問題に関する交渉経過を報告するとともに、①木更津脱退強要問題での謝罪がなされない場合、②新たな不当労働行為が発生した場合、③幕張での有機溶剤作業を組合との合意がないまま再開した場合は、ストライキに突入することを改めて確認し、動労千葉破壊攻撃に對する長期抵抗闘争への組織体制確立を訴えた。

「各支部代表から熱気溢れる決意表明」

また、基地統廃合を中心とした貨物職場の問題について貨物協議会での検討事項やこの間の交渉経過などについて清水事務局長より報告が行なわれ、京葉ルートへの乗り入れ問題と新小岩地区から蘇我地区への機能移転問題が来年三月に焦点となる

こと、中長期計画での七千人体制(四千削減)とは今後の五才原則出向者の数であり、現在の仕事量をそのまま維持するなど到底困難であることなど、分割・民営化の最大の矛盾を抱える貨物職場の問題が今後の重要課題となることを訴えた。

三多摩労組交流センターからの檄電披露後、各支部からの決意表明が行なわれ、「有機溶剤作業は中断しているが、当局は作業再開の機会をうかがっている。謝罪や合意がないままの再開にはストで闘う」(幕張)、「支区長自ら脱退届けを手渡し

たことを認めていながら開き直っている。不当労働行為の根絶へ闘う」(木更津)など、JR-JR総連革マル一体となった組織破壊を粉碎する熱気みなぎる発言が続いた。

最後に、布施副委員長の閉会の言葉、関青年部長の組合歌唱、中野委員長の音頭で団結力

ンパロー三唱を行い、総決起集会を終了した。



「写真」会社側の組織破壊攻撃粉砕へ全支部一丸となつて闘うぞ！

月に総武線と京葉線で連続した列車防護無線の発放は、「上尾暴動」の再現を狙ったものだ。様々ないきさつやJR総連が組織的危機の時に必ず起きていることを見ると、JR総連を支援するグループが行なっているという結論になる。JR総連革マルが、ますますファシスト労働運動に純化し、労働者に襲いかかってくることをはつきりと認識しなければならぬ。

最後に、動労千葉は当面次の三点を焦点にして闘いぬく。  
一つ目は、列車妨害事件に對して、徹底した摘発・弾劾行動に立ち上らなければならない。列車妨害が発生したら直ちに支部・本部に連絡しよう。  
二つ目は、木更津の脱退強要問題に見られる組織介入には即座にストライキに入る。一人でも手をついたら動労千葉の組織を挙げて闘わなければならない。

三つ目は、幕張の有機溶剤作業問題について、当局の責任を徹底的に追するとともに、作業再開を強行するならばストライキに突入する。会社に責任を取らせるまでしつこく闘いぬき、九六年七月の国鉄闘争に勝利しよう。何よりも夏季物販を展開し、七月一四日の国鉄労働者集会を圧倒的に成功させよう。